



南阿蘇村立南阿蘇中学校 学校だより

ハーモニー

校訓
南 阿 蘇
Mission Action Sense
使命 行動 感性

R4. 10. 28(金) No.24 小柳 弘志

学習成果発表会、大成功でした

10月21日(金)、学習成果発表会を行いました。当日は天気も良く、参観いただく保護者の皆さまの防寒への心配も少なく済み、ほっとしました。生徒の発表は展示の部も、ステージの部も素晴らしかったです。ステージ部門を写真で紹介します。

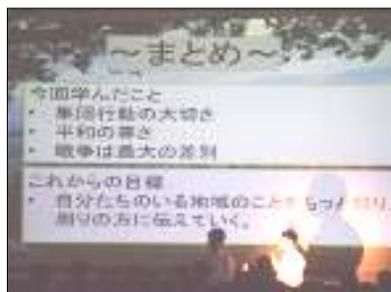
(代議員会：授業についての提言)



(2年：職場体験発表)



(3年3組：平和学習発表)



(午後：合唱コンクール直前練習)



(実行委員会：展示見学の諸注意)



(3年2組：人権学習発表)



(午後：合唱コンクール)



(1年：農業体験発表)



(3年1組：防災教育発表)



【記憶に残る生徒の言葉】

- 授業を受ける態度が変わることで普段の学校生活の雰囲気も変わってくる。クラスで声かけをしあい、みんなで居心地の良い学級、学年を作っていきましょう。(代議員)
- この合唱は、それぞれの思いを思いっきり出して、今日ここにはいない人もいるけど、3年3組27名全員の思いを歌い上げます。仲間との絆、今日までの練習で培ってきた自信を胸に、気持ちを声にのせて届けます。聞いてくださる方々の心に届き、少しでも元気になってもらえたら嬉しいです。(3年3組)

じんけん 人権について考えています

学校では人権について生徒と一緒に考えています。
さまざまな人権についての課題がありますが、先日、全国

じんけんようごいいんれんごうかい
人権擁護委員連合会から「種をまこう」という作品集が届きました。作品を紹介していきます。

「保護者さん」

放課後、学校の裏庭で俺は吠えた。「授業中、本当にうるせえんだよ。」「騒ぐなって言ってるだろ!」「お前のせいで、いつもみんなが迷惑してんだよ。」俺はそう言いながら、彩人を小突いたり、鞆を蹴って放り投げた。俺はイライラしてつい彩人に当たってしまう。「おとなしくしてろよな。」彩人は口をつぐみ、固まったまま、俺をにらんでいる。そんな彩人を見ると、また俺はイライラが増してくる。



彩人は小さい頃から落ち着かない子どもだった。授業中、大きな声を出したり、突然歩き回ったり、訳の分からない行動をとったりと、それは中学生になってから、少しは収まっては来ているが、隣の席の人にちょっかいを出したり、団体行動が出来ないでいる。その度に俺はクラスのみんなから、「彩人の保護者さん、静かにするよう注意してください。」と言われ笑われる。「俺は彩人の保護者じゃねえよ。」と言い返すが、またイライラが加速する。

そもそも俺と彩人は家が近所で、小さい頃からいつも一緒に遊んでいた。その頃は彩人の突飛な行動や、おしゃべりが面白かった。彩人のお母さんからも「彩人をお願いね。仲良くしてね。」と頼まれていたこともあるが、俺自身が彩人を弟のように思っていたのだ。だから面倒を見るのが嫌ではなかったし好きだった。そして、彩人は小学校の頃までは、俺が注意をすると、素直に言うことを聞いてくれていた。

だけど中学生になってから、俺は部活動や勉強に忙しく、それに他の友達との付き合いも増えていった。自分の世界が広がるにつれ、なかなか自分の思うようにならないことが出てきて、気持ちばかり焦っていた。そのせいで、彩人から遠ざかっていた。最近では、そんな俺の気持ちを察してか、彩人は俺の言うことを聞かなくなり、それどころか反抗までするようになってきた。「彩人なんかどうでもいいや、もう知らない。あんなに面倒見てやったのに、俺は保護者じゃない。」

そんなある日のことだった。「最近、彩人は学校休んでいるよな、彩人がいないと静かだけどさ、何となく気になるんだよな。健太、何か知ってんじゃないの、保護者さん。」「やめろよ、その言い方、俺は彩人の保護者じゃねえし、知らねえよ。」そう言い返したが、何だか胸騒ぎがした。

その日、担任の先生から「放課後、相談室へ来るように。」と言われた。相談室に行くと、担任の先生と相談室の先生が待っていた。「何で呼ばれたか、分かるか。」少し間があり「分かるよな。」俺は、先生と目が合い「彩人のことですか。」と答えた。「そうだ。彩人、この所、学校へ来てないよな。彩人のお母さんから連絡が来て、大変心配していたよ。彩人は『健太のいる学校へは生きたくない。』と言っていて、それ以外は口をつぐんだまま、訳を聞いても言わないそうだ。ただ最近、服や鞆、教科書が汚れたりして帰ってくるが多くなってきていたので、心を痛めていたらしい。何があったのか話してくれないか。」そう先生に言われたが、俺は黙って下を向いていた。

すると、先生は優しい口調で、「健太、部活ずいぶん頑張っているじゃないか。顧問の先生もほめていたぞ」「でも俺、頑張ってもレギュラーがとれないし。」と、ふてくされて言った。「そうか、それで勉強にも身が入らなかったのか。」先生が笑いながらいったので、「勉強は好きじゃないけど、部活だけは負けたくなかった。最近何もかも思うようにいかないし、クラスの皆からは『彩人の保護者なんだから、どうにかしてください』と言われるけれど、彩人は俺の言うことを聞かないで、勝手なことをしてくる。『保護者さん』と言われるたびに、面倒くさくて彩人に関わるのが嫌になってきた。このままではいけないと思えば思うほど、思わず彩人に当たり散らしてしまっていた・・・。」

そんなことを少しずつ俺は、先生に話していた。話をするうちに自分勝手な思いで彩人を傷つけてしまっていたことに気がついた。「そうだ、健太が彩人にしてきたことは、絶対にしてはいけない行為だ、どんなことがあってもしてはいけないことだ。人はひとりとして同じ人はいない、皆違う、わずかなすれ違いや思い違いのために、結果として相手を傷つけてしまうこともある。でも人は思いやりの心を持っている。難しいことだけれど、相手の気持ちを考え理解し、そしてその気持ちを相手にちゃんと伝えれば、お互いの心の絆を強くすることが出来るんだよ。」先生の話聞いて、『俺は本当に悪いことをしてしまった。彩人に会って謝りたい。』と、心からそう思った。